



槻田川でのホタルの放流

連携の絆で取り組むホタル飼育 ～ ホタル飼育を紹介するパンフレット～



北九州市立高槻小学校

ホタル飼育のはじまりは…？

高槻小学校のホタル飼育の始まりは、昭和57年にさかのぼります。

当時の槻田（つきだ）川のごれは、目にあまるものがありました。

周辺の人口増加による生活排水（はいすい）の増加、上流では養豚場（ようとんじょう）が汚水（おすい）を垂（た）れ流し、建築資材の砂利（じゃり）を取る採石（さいせき）工場は積もる粉塵（ふんじん）を川に流しこむ等、非常に汚（よご）れていました。さらに田畑では収穫（しゅうかく）を増やすために化学肥料（ひりょう）・農薬を多く使い、川の生き物は死んでしまい、悪臭（あくしゅう）を放ちはじめた槻田川は死んだ川へと変わっていったのです。

このことは、槻田川にかぎったことではなく、当時の北九州市では、工場から出される煙（けむり）で大気が汚染（おせん）され、川や海に流される工場や家庭からの排水（はいすい）で、川や海も汚染（おせん）されていました。

そこで、立ち上がったのが槻田（つきだ）地区発展期成会（きせいかい）でした。会は、豊かな自然を取り戻すために「ほたるの里づくり」をスローガンに、槻田川の美化運動を進めました。

そして、昭和57年に高槻小学校のホタル飼育小屋をはじめとするホタル飼育施設（しせつ）を寄贈（きそう）してくださったのです。



高槻小学校は、北九州市八幡東区にある学校です。昭和19年に開校し、平成26年に創立70周年を迎えました。槻田川の上流の山あいには位置する校区は、自然がたいへん豊かです。

生活科や総合的な学習の時間では、ホタル飼育をはじめとする槻田川の生物観察、校区の畑におじゃまして枝豆や蕎麦の除草作業等、自然とふれ合う体験活動を行っています。



ホタル飼育室

高槻小学校では、地域・家庭との連携の絆の中で、ホタルの小さな命を大事にはぐくんでいます。

ホタル飼育の準備（5月）

ホタルの飼育小屋や校地内にある川や池のそうじをして、ホタル飼育の準備をします。



5名の飼育ボランティアの方が（26年度）ホタル飼育を支えてくださっています。

種（たね）ホタルとり（6月初旬）



飼育ボランティアの方、そしてお父さん方の協力をいただいて、幼虫の親である種（たね）ホタルをとります。

ちょうちは、「種ホタルをとってもよい」という許可書（きょかしよ）となっています。

ホタルの幼虫を飼育します（7月～9月）

産まれたばかりの幼虫は1mmくらいしかありません。幼虫のエサとなるのは、カワニナという貝です。



ホタルの幼虫は自分と同じくらい大きさのカワニナを食べます。ですから、赤ちゃんの幼虫には、稚貝（ちがい）を与えます。



上はホタルのエサとなるカワニナの稚貝を採集（さいしゅう）する装置です。細かな目の網の中に入る稚貝を集めるためのものです。

緑のかごの中に、親のカワニナとカワニナのエサとなるイヌビワの葉を入れていきます。



イヌビワの葉



夏休み中も、おうちの方や地域の方といっしょに、ホタルの幼虫のエサとなるカワニナの稚貝を集めたり、カワニナのエサとなるイヌビワの葉を採集したり、幼虫を飼っているトレイの水をかえたりして、お世話をします。

ホタルの幼虫を放流（10月）



育てた幼虫を槻田川に放流すると飼育活動は終了です。平成26年度は、約8000匹の幼虫を放流することができました。